

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 瑞浪高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月2日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 瑞浪高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	山田 幸男	瑞浪市教育委員会 前教育長	
副会長	正村 和英	瑞浪市 総務部長	
委員	景山 助夫	瑞浪商工会議所 会頭	(欠席)
	三輪田幸泰	瑞浪市議会 議員	
	薄井 義彦	瑞浪中学校 校長	(欠席)
	栗岡 洋美	中京学院大学短期大学部 准教授	
	田中真奈美	瑞浪幼稚園 園長	(欠席)
	玉川 幸枝	合同会社プロトビ 代表	
	熊本早由里	瑞浪高等学校 育友会長	(欠席)
オブザーバー	小川 祐輝	岐阜県議会 議員	(欠席)
	水野 光二	瑞浪市 市長	(欠席)
	石田 智久	瑞浪高等学校 同窓会長	
学校側	伊左治錦司	校長	
	工藤 正紀	教頭	
	相賀 栄寿	事務長	
	今井 典彦	教務部長(教務主任)	
	丸谷 利幸	進路支援部長(進路指導主事)	
	横井 雅代	生徒支援部長(生徒指導主事)	
	齋木 一美	生活産業部長(生活デザイン科主任)	
	林 尚志	県立高校地域連携コーディネーター	

5 会議の概要(今年度の取組と自己評価・来年度の学校運営について)

(1) 学校評価アンケートについて

意見1:先日(1月25日)行われた卒業制作・実践活動発表会を最初から最後まですべて参観させてもらったが、大変素晴らしい発表であった。特に発表の中で生徒が「瑞浪高校は先生と生徒の距離が近い」と語る場面があった。瑞浪高校の良さが出ている言葉である。瑞浪市内唯一の公立高校として地域との距離も近い学校であることも大切にしていきたい。

- 意見2：卒実の午前の部では「探究活動」の発表が行われたが、地域とつながることで広い視野を持ち、生きる力や必要な学力を身につけられると感じた。午後の部は生活デザイン科の4コースの発表があったが、3年生の生活デザイン科の生徒の表情が実に生き生きとしていて大変良かった。この行事は生徒自身が自信をつける良い機会になっている。もっと外部への発信を行い、瑞浪高校をPRする必要がある。
- 意見3：教務部からの説明では成績不良者が減ってきているとの説明があった。具体的にはどのような工夫をしてきたのか。
⇒以前と比べて生徒数が減少し、おとなしい生徒も増えたことで、個々に対応することが可能になった。
- 意見4：昨年11月に行われた創立100周年記念式典について市内の卒業生や地域住民に十分な情報が伝わっていないように感じた。広報活動はどのように行ったのか。
⇒瑞浪駅や公共施設、大型スーパーや飲食店にもポスターを掲示してきたが、確かに地域の認知度は高くなかったかもしれない。
- 意見5：普通科の生徒には国公立大学を目指させてもらいたい。タブレットや外部機関も活用して上位層を伸ばす工夫をしてもらいたい。
- 意見6：進路支援の自己評価のなかで10の評価視点の「全職員に周知できたか」の項目に評価が「C」と記載してあるが、この理由が知りたい。
⇒これは地域連携プロジェクトの取組についての評価である。こちらとしては例年通りという思いで進めていたが、今年度新たに赴任した職員が多く、十分に伝わらないことが多かった。
- 意見7：地域連携プロジェクトは社会や大人とのつながりができる良い機会と捉えて今後も活動を継続してもらいたい。一方で、就職した生徒の離職が少なからずあると伺った。生徒が一度就職した会社を早期に辞めてしまうのは残念である。これは提案だが、生徒、保護者、地域、企業を交えた進路に関する座談会等を開催してはどうか。
- 意見8：現在部活動の加入率はどのようになっているのか。私は採用側として面接する際の評価ポイントの1つとして部活動の活動状況を大事にしているので、是非部活動を3年間継続してもらいたいと考えている。
⇒現在の部活動加入率は84.5%である。現在は部活動の強制はできないが、学校としても部活動への参加を呼びかけている。
- 意見9：今年度導入した「ほっとプレイス」はとても大切である。生徒の居場所を学校内にしっかりとつくることに意味がある。また、この場合、SCやS相等のスタッフの充実が必要となってくる。
⇒現在SC、S相共に配置しているが、時間的な制限がある。教育相談主務者に加えて各年次に教育相談担当者の職員を1名ずつ配置している。
- 意見10：私は月に一度瑞浪市内の清掃活動「グリーンバード」を行っている。地域とつながる意味でも高校生に是非参加をしてもらいたい。大きな負担感がなく、長く続けられることを期待している。

6 会議のまとめ

- 中学3年生の進学先志望調査ではこの2年ほど近隣の土岐紅陵高校が人気で、昨年度は入学定員を超える受検者があった。この状況を瑞浪高校としてしっかりと分析し、今後に生かす必要がある。
- 瑞浪高校としての明確な立ち位置がわかりづらい。もっと特色を打ち出し、中学生や地域にアピールする方法を考える。
- 防災の分野で職員の危機管理意識が低いと記載があった。災害はいつ、どこで起こるかわからないので職員全員の危機管理意識を高めることが急務である。
- 地域の活躍している著名人や同窓生で成功している先輩を学校に招くなどして、生徒への意識を高める機会を多く設ける必要がある。